

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

(1) 調査に関する概要

- ① 実施期間 令和7年4月～令和7年7月
- ② 調査学年 小学校（義務教育学校前期課程を含む。）5年生
中学校（義務教育学校後期課程を含む。）2年生
- ③ 調査事項
 - ア 実技調査【8種目】
 - ・握力
 - ・上体起こし
 - ・長座体前屈
 - ・反復横とび
 - ・20mシャトルラン
(中学校は、持久走男子1,500m、女子1,000mか20mシャトルランのどちらかを選択)
 - ・50m走
 - ・立ち幅跳び
 - ・ボール投げ（小学校：ソフトボール、中学校：ハンドボール）
 - イ 児童生徒の体格
 - ウ 質問紙調査（運動習慣・生活習慣・食習慣等に関する質問）

(2) 体力・運動能力に関する調査結果

【概要】

- 体力合計点については、小学校男女において全国平均及び県平均を上回った。特に、小学校女子は、全国及び県平均を大きく上回った。
- 「50m走」「立ち幅跳び」については、全ての調査学年・男女で全国平均を上回っていることから、本市は8つの体力要素の中でスピード、瞬発力に優れている傾向にある。
- ▲ 本市の課題である「長座体前屈」については、小学校女子が県平均を上回ったが、全国平均には届いていない。小学校男子、中学校男女においては、全国平均及び県平均を下回っており、引き続き改善を図る必要がある。
- ▲ 「ボール投げ」については、小学校女子が全国平均を上回ったが、県平均には届いていない。小学校男子、中学校男女においては、全国平均及び県平均を下回っており、引き続き投げる力に課題が見られる。

※体力合計点

異なった単位の測定値を、単位が共通な10点満点の「ものさし（尺度）」に変換し、8項目の実技テスト結果を合計した点数。

【体力合計点集計】

	小学5年男子	小学5年女子	中学2年男子	中学2年女子
R6本市平均	53.12	56.86	42.17	47.51
R7本市平均	53.69	56.36	41.87	46.24
R7全国平均	53.02	53.97	42.20	47.58
R7県平均	52.60	54.65	42.55	48.13

(3) 児童生徒の体格

【概要】

- 小学校男子の肥満傾向児出現率は大きく減少し、全国平均及び県平均よりも下回った。
- ▲ 小学校女子、中学校男女においては、昨年度よりも肥満傾向児出現率は増加し、全国平均を上回っている。

【肥満傾向児出現率】※肥満傾向児出現率は、「高度肥満」「中等度肥満」「軽度肥満」を合わせた割合。

	小学5年男子	小学5年女子	中学2年男子	中学2年女子
R6本市平均	17.2%	7.5%	12.6%	8.3%
R7本市平均	12.1%	13.8%	14.0%	9.5%
R7全国平均	12.8%	9.4%	9.8%	7.1%
R7県平均	16.7%	12.0%	12.9%	10.0%

(4) 児童生徒質問紙調査の結果

【概要】

- 運動が「好き」「やや好き」と答える児童生徒の割合は、全ての調査学年・男女で全国値を下回っているものの、小学校男子で93.2(↑2.8)％、中学校男子で90.5(↑0.8)％と昨年度より向上し、全国値と同等の数値であった。
- 体育・保健体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」と答える児童生徒の割合は、全ての調査学年・男女で全国値を下回っているものの、小学校女子で87.8(↑0.4)％、中学校男子で92.8(↑1.2)％と昨年度より向上し、全国値とほぼ同等の数値であった。
- 保健の学習を通してもっと運動しようと思った児童生徒の割合は、全ての調査学年・男女で全国値を上回った。
- ▲ 体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することが「いつもある」、「だいたいある」と答える児童生徒の割合は、中学校男女で約70％と全国値を上回っている。小学校男女では、約40％となっており増加傾向であるが、全国値より約20％下回っている。
- ▲ 中学校男女において、1週間の総運動時間は全国平均と比較して、男子で約20分、女子で約50分と上回っているものの、小学校男子では約80分、小学校女子においては、約30分全国平均を下回っている。中学校では特に週末の時間に運動に親しんでいる傾向にあり、主に学校の部活動において運動に親しんでいる生徒の割合が多い。

(5) 考察

体力・運動能力については、小学校男女において、体力合計点で全国平均を上回ることができた。これは、各学校が児童の実態を分析し、「《改訂》運動身体づくりプログラム」の積極的な活用や「体力向上推進計画書」に基づいて積極的に体力向上に取り組んだ成果である。

また、本市の課題である「長座体前屈」については、毎時間ストレッチを補助運動に取り入れるなど、引き続き推進していく必要がある。「ボール投げ」についても課題となっており、柔軟性の向上と同様に、体育・保健体育の授業において発達段階に応じた取組を継続的に推進していく必要がある。

今後は、各学校における肥満傾向児出現率の改善に向けた指導とともに、自校の特徴や課題の分析に基づいた個別の支援がより重要であると考え。体育・保健体育科の目標である生涯にわたったスポーツライフの実現に向けて、自分手帳やICT機器の効果的な活用を図り、発達段階と運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わう授業の一層の充実と継続的な取組を推進していくことが必要である。